

学力向上に向けたチーム木野東小の取組 ～学力向上推進会議を中心とした組織的な学力向上の推進～

音更町立木野東小学校
学 級 数 21
(校長 山田 洋)

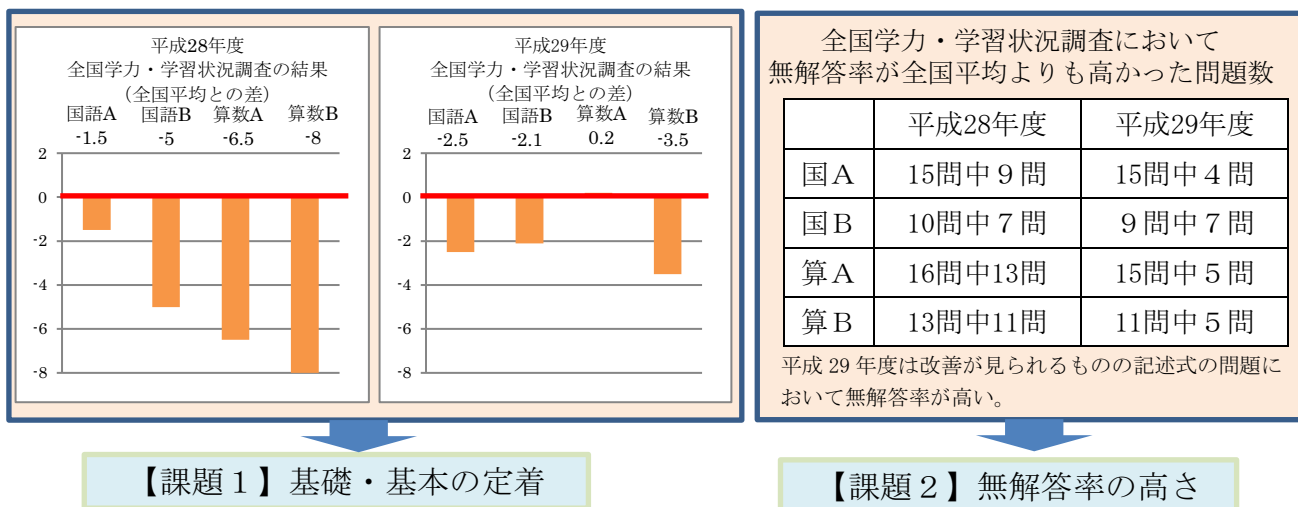
I はじめに

本校は、児童数 644 名、普通学級 21、特別支援学級 11、教職員数 44 名と十勝管内でも有数の大規模学校である。

本校が重点課題としているのは、学力向上である。全国学力・学習状況調査の結果において、全国平均を下回るなど、調査結果から浮かびあがってきた本校児童の学力における課題を解決するために、全教職員が指導内容・方法等の共通理解を図りながら全校体制での取組を進め、チーム木野東小として学力の向上を推進していくこととした。

II 全国学力・学習状況調査の結果から明らかとなった課題

平成28・29年度全国学力・学習状況調査の結果から、平成29年度の算数A以外、国語A・B、算数A・Bにおいて全国平均を下回った。また、無解答率が高いという傾向も見られた。



III 課題の解決に向けた校内体制の構築

「基礎・基本の定着」「無回答率の高さの解消」のために、日々の授業改善を行っていくことは学級担任の役割でもある。しかし、学力向上は学級担任だけが実践するものではなく、学校全体で取組を進めていくことが大切である。全教職員が共通理解のもと、全校体制で児童の学びを支えていくことが、児童一人一人の「基礎・基本の定着」「無回答率の高さの解消」につながるための手立ての一つになると考えた。

そこで、学力向上の中核的な役割を果たす学力向上推進会議を組織することとした。学力向上推進会議は、教務部や研修部、指導方法工夫改善加配教員、授業改善推進教員により構成することで、各分掌が中心となって進めることを整理し、学級担任による日々の授業改善と並行して、児童の学力向上のための取組を学校全体で進めていくことで、「基礎・基本の定着」「無回答率の高さの解消」につなげていくこととした。

IV 学力向上推進会議を中心とした改善策の検討

学力向上推進会議が中心となり、全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、全教職員で実態を共有するとともに、改善のための取組を学校全体で進められるようにした。また、取組の検証を年度の途中で行うことで、取組の改善を図ることにつながられるようにした。

【学力向上に係る取組の検証改善サイクルのスケジュール】

時 期	内 容
4 月 C ↓ 5 月 A ↓ P ↓ 6 月～ D	全国学力・学習状況調査の実施 全国学力・学習状況調査の自校採点結果による分析及び課題の明確化 課題の解決に向けた学力向上の改善策の検討 学校全体で、学力向上の改善策の実施
12 月 C ↓ 1 月～ A ↓ P ↓ D	児童・教職員・保護者アンケートの実施 アンケート結果をもとに、実施状況及び成果の確認 課題の解決に向けた学力向上の改善策の検討 学校全体で、学力向上の改善策の実施

V 学力向上の改善策

1 学力向上の改善策の概要

本校では、これまでも学力向上に向けて、研修部による授業改善の取組や、習熟度別・少人数指導等の個に応じた指導の工夫、小中連携の取組を行ってきたものの学校全体として一体的な動きとならなかった。そこで、学力向上推進会議による改善策の検討を受け、改善策の推進を既存の分掌等に振り分けることにより、学校全体として一体的な取組ができるように工夫した。改善策の概要は次のとおりである。

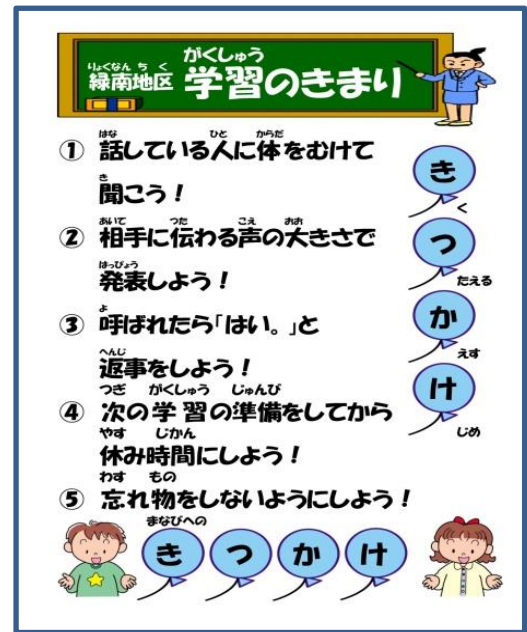


2 学びの土台をつくる学習規律の定着を図る取組

学習内容の定着を図るためには、児童が落ち着いた雰囲気の中で学習に集中できる環境づくりに取り組む必要があると考えた。

そこで本校では、児童の実態から「学習のきまり」を作成した。作成に当たっては、9年間で統一した指導ができるよう、近隣の緑南中学校、下土幌小学校と協議し、3校で統一した「学習のきまり」を作成した。

また、児童が常に落ち着いた雰囲気の中で学習に向かうことができたり、「学習のきまり」を振り返ることができたりするように、このきまりを全学級で掲示し、教職員と児童が、日常的に学びの土台づくりの意識の醸成を図れるようにしている。



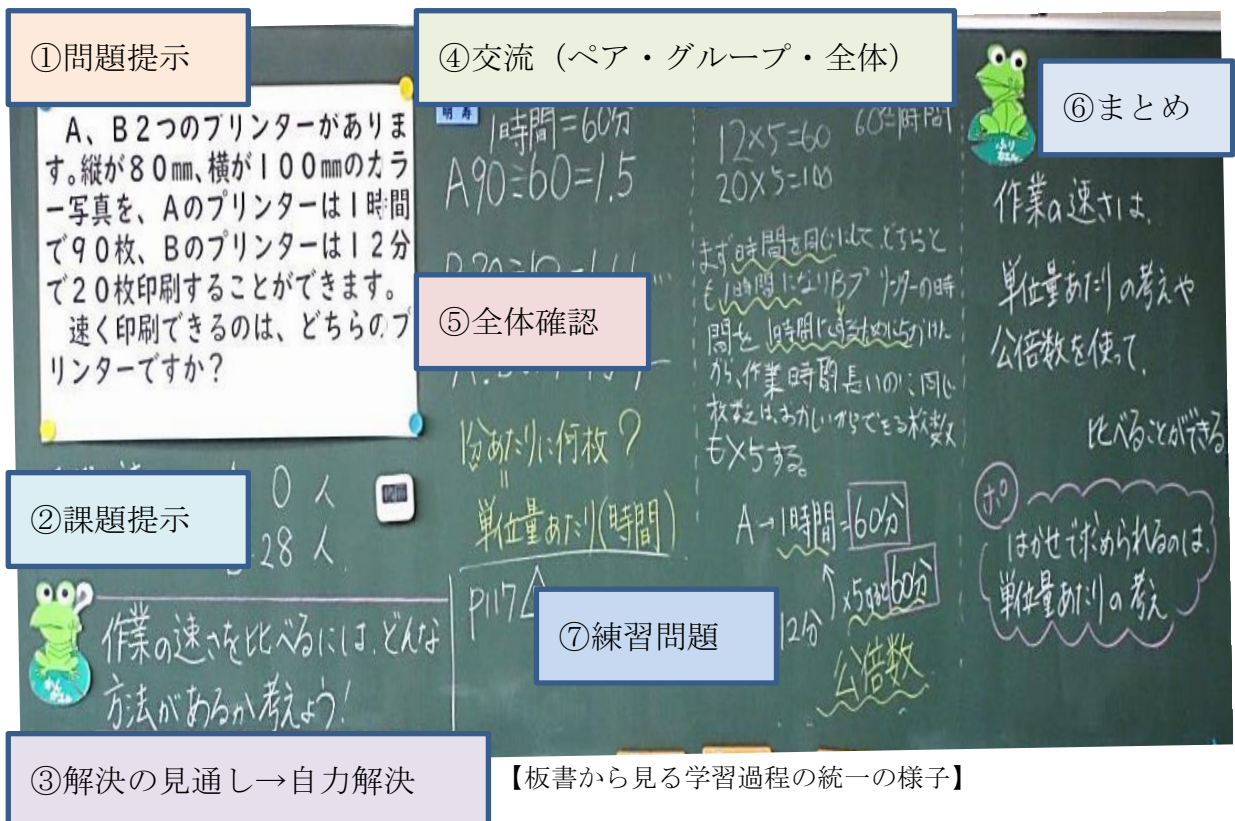
【学習のきまり】

3 研修部による学習過程及び授業改善のポイントの共有

学習内容の定着を図るためには、全教職員が日々の授業において児童の実態に基づく継続的な指導を徹底して行うことが重要である。本校では、校内研修として、算数科の授業改善に取り組み、児童に基礎・基本を確実に習得させる授業づくりに取り組んでいる。

組織的に取り組んできた授業づくりを異動により転入する教職員や初任段階教員とも共有することが大切である。そこで、研修部が中心となり年度の始めに1単位時間の学習過程について共通理解を図った。

また、具体物、図、式、表などを用いて自分の考えを書いたり、説明したりするなどの言語活動を積極的に取り入れることや、まとめにおいて自分の考えを書く時間を確保することなど、書く活動の重視を全校で行い、無解答率の高さの解消につなげている。



【板書から見る学習過程の統一の様子】

【書く活動の重視】
式や図などを用いて自分の考えをしっかりと書かせます。

【書く活動の重視】
発達の段階に応じて、キーワードを使ってまとめたり、リード文をもとにまとめたりするなどして、児童に書かせます。

【板書と連動した児童のノート】

4 指導方法工夫改善加配教員による指導体制の工夫

本校では、第4・5学年において習熟度別・少人数指導を実施し、個に応じた指導の工夫により学力下位層の底上げに取り組んでいる。しかし、授業についての打合せ時間の確保の難しさや習熟度別・少人数指導における効果的な指導方法について認識不足などの課題があり、効果的な活用が図られない場面が見られた。

そこで、指導方法工夫改善加配教員が中心となり、①習熟度別・少人数指導の目的、②効果的な活用の具体例、③習熟度に応じた指導の工夫などについて、確認し、共通理解を図った。これにより、児童の実態に合わせた少人数による指導や習熟の程度に応じた指導の充実につなげることができるようになり、学力下位層の児童が授業において、「わかった」「できた」と実感できるようになってきた。

また、放課後に補足的な学習を実施している。毎回、児童が持参した課題に取り組んだり、分からない問題を解決したりしながら学習を進めている。

これらの補足的な学習については、指導方法工夫改善加配教員や主幹教諭が担当することで、学級担任の負担を減らし、学校全体で児童の学力向上を支えることにつなげている。

5 授業改善推進教員による授業改善の推進

本校では、今年度より授業改善推進チームの指定を受け、授業改善推進教員が1名配置されている。近隣の音更小学校にも1名配置され、両校に隔週で勤務をしている。授業改善推進教員の2名は、第1～3学年に1名、第4～6学年に1名を配置し、それぞれ国語と算数のTT指導を行っている。

授業改善推進教員が、TTを行う際、次の4点を意識することで、学校全体の授業改善につなげている。①学級担任と打合せの中で、本校の授業改善のポイントとしている「課題とまとめ・定着問題の徹底」、「自分の考えを書く活動」の位置付けについての吟味、②授業中における授業改善のポイントが効果的に働いていたのかの確認、③授業後における学級担任との授業改善のポイントの振り返り、④授業改善推進チーム通信による好事例の発信、これらにより授業改善のポイントを学校全体で一層の共通理解を図るとともに、各学級担任の次時からの授業改善につなげられるようにしている。



平成30年度 授業改善推進チーム通信 第8号 文責 吉岡・大西

LET'S GET STARTED

☆6月も中旬に入り、1学期も残り1か月になりましたね。1学期の評価のことも少しずつ頭になんて浮かんでくる時期です。各学年で進捗を確認しつつ、余裕をもって進め、放課後の授業の感想や朝の簡単な打合せを引きたいと思います。

1学期の重点
STがスタートして約2ヵ月が経ちました。毎「なるほど」という気付きをたくさん発見できて、度員具体的目標(授業が良くなるポイント)を設け、各学年で進捗を確認しつつ、余裕をもって進め、放課後の授業の感想や朝の簡単な打合せを引きたいと思います。重点は、以下のように設定しました。

1時間の授業の中の目標を明確にした授業展開・授業配分時間の意識

これは木野東の研

課題とまとめが示された流れの分かる板書

すでにもう実践されている先生がたくさんいます。あくまでも1学期間、意識が高まるように先生方と関わっていきたく思います。

今週のいいね!

☆導入部分大事ですね <1~3年生> ~2年3組

算数「長さをはかろう」の直線のひき方の授業でした。cmとmmの学習した後、実際に10cmなどの長さを竹物差しで直線をひきます。黒板にも今先生が書かれているように「本時は何をやるのか」というところ課題が書かれています。大きく書いた課題とICTとの組み合わせにより、子ども達は興味・関心を持って学習を続けていたと思います。また、竹物差しでは数字が書いていないので慣れるまで間違

【授業改善のポイントの共通理解】
授業改善のポイントを視覚化して、学校全体で取り組めるようにします。

【好事例の発信】
授業改善のポイントに係る好事例を発信し、教職員の意識化を図るとともに、学級担任との打合せの際にモデルとし、授業改善のイメージをもてるようにします。

【授業改善推進チーム通信「LET'S GET STARTED」】

6 小中連携による望ましい学習習慣の形成

本校は、近隣の緑南中学校と下士幌小学校との小中連携の取組を推進している。小学校を卒業後の春休みに取り組む課題がないために、これまで培ってきた学習習慣が継続されないことが、課題として挙がっていた。そこで、3校の教職員により「春休みの課題」(国語・算数・理科・社会)を作成し、卒業を迎える第6学年に配付した。児童は、春休み中に課題に取り組み、4月に入学先の緑南中学校に提出する仕組みを確立することで、学習習慣を崩すことなく中学校へ入学することができるようになった。また、「春休みの課題」を3校の教職員で作成することで、中学校入学までに小学校で必ず身に付けたい知識・技能が明確になるなど、教職員の指導の重点化にもつながっている。

小学校のふりかえり(国語編) 緑南中学校 1年 組 番
 允付けもして、中学校の先生に出しましょう。 名前

*自分の名前をローマ字で書きましょう。

1 次の言葉をローマ字で書きましょう。 (にわとり)

小学校の振り返り 算数編 緑南中学校 1年 組 番 名前

1、次の計算をしましょう

(1) $17+9$	(2) $0+93$
(3) $65+32$	(4) $274+628$

2、次の計算をしましょう

(1) $63-8$	(2) $74-0$
(3) $57-24$	(4) $326-158$

中学校の教職員とともに作成することで、入学までに必ず身に付ける知識・技能が明確になっています。

【春休みの宿題】

V 成果と課題

- 平成30年度全国学力・学習状況調査において、5教科中4教科で全国平均を上回った。また、無解答率も多くの問題において、全国平均を下回った。
- 学力向上推進会議の設置により、組織的な授業改善の推進と検証改善サイクルの確立が図られるとともに、学校全体で一体的な取組の推進を図ることにつながった。
- 家庭や地域と目指す子ども像を共有するとともに、家庭や地域と連携した学力向上の取組を推進していく必要がある。